

2024年度

医機連 創立40周年記念シンポジウム

【日時】 2024年10月18日（金） 15:00-17:00

【会場】 大手町三井ホール (<https://otemachi-hall.jp/index.html>)

【テーマ】－いつでもどこでも安心して受けられる医療と健康への貢献－

～ プ ロ グ ラ ム ～

1. 開会挨拶 (15:00-15:05)
(一社) 日本医療機器産業連合会 会長 山本章雄
2. 講演 (15:05-16:45)
【講演Ⅰ】－医療機器業界で求められる人材像－
(一社) サステナヘルス代表理事/日本医療政策機構理事 小野崎 耕平 氏
【講演Ⅱ】－健康に投資する医療への拡張－
株式会社ミナケア 代表取締役社長 山本 雄士 氏
【講演Ⅲ】－医療機器市場の環境変化と日本企業にとっての示唆－
株式会社 野村総合研究所 メドテックコンサルティング部 部長 松尾未亜 氏
3. 閉会挨拶 (16:45-16:50)
(一社) 日本医療機器産業連合会 副会長 高木 俊明

2024年度 医機連 創立40周年記念シンポジウム 開催主旨

一般社団法人日本医療機器産業連合会（医機連）は1984年2月に「医療機器産業の発展と国民の健康福祉の増進」を目指して設立され、2024年に設立40周年を迎えました。設立40周年を迎えた今、将来の医療機器産業の姿を見据え、新たに「医機連産業ビジョン－いつでもどこでも安心して受けられる医療と健康への貢献－（2024ビジョン）」を策定いたしました。

この2024ビジョンは、新型コロナウイルス感染症のパンデミックや国際情勢の急激な変動といった大きな社会変化を経験した現在の視点から少子高齢化が進む我が国の医療機器産業の在り方と今後の方向性について、産業界、行政等の関係機関や一般に向けて示すものです。

2024年度医機連創立40周年記念シンポジウムでは、3名の演者からこの2024ビジョンをテーマとし、「人材育成」「予防医学」「国際関係」に関し講演をいただきます。

一般社団法人 日本医療機器産業連合会 会長 山本章雄

演者紹介

講演Ⅰ 小野崎 耕平 氏

一般社団法人 サステナヘルス代表理事 日本医療政策機構理事



■ご略歴

一般社団法人サステナヘルス代表理事。ジョンソン・エンド・ジョンソン、アストラゼネカ執行役員、日本医療政策機構事務局長（現在は理事）を経て、エゴンゼンダー東京オフィスにて企業統治・経営人材コンサルティングに従事。ヘルスケア・保健医療分野の政策と組織人事分野で活動し、厚生労働省保健医療政策担当参与なども務めた。

現在は複数のグローバル企業、医療機関、非営利組織の役員やアドバイザーとして経営再建、組織改革、経営陣の能力開発等に従事している。聖路加国際大学公衆衛生大学院医療政策管理学客員教授。

■ご講演内容の要旨

医療機器業界は、医学、工学、製薬、デジタル、ロボティクス等さまざまなプレイヤーとの協業がこれまで以上に加速していくと同時に、北米を中心とするグローバル市場の攻略も重要となる。また、人口動態、ライフスタイル、経済財政状況の変化に伴い、事業環境は複雑性を増しており、外部ステークホルダーとの連携・協業もより深めていく必要がある。このような背景から、これからの業界で求められる人物像、とりわけ経営人材に求められる能力、知識、スキル等の要件、経営人材の獲得、育成に必要な視点を提供する。

講演Ⅱ 山本 雄士 氏

株式会社ミナケア 代表取締役社長



■ご略歴

株式会社ミナケア代表取締役社長。一般社団法人健康と経営を考える会代表理事。エムスリー株式会社チーフ・ヘルスケア・オフィサー。

東京大学医学部を卒業後、循環器内科、救急医療などに従事。Harvard Business School修了を経て、科学技術振興機構フェロー、内閣官房企画調査官、厚生労働省参与などを歴任。病気にさせない医療の実現に向けてミナケアを創業し、産業創出や政策提言などを国内外で行う。共著書に『投資型医療』（2017、ディスカヴァー・トゥエンティワン）、訳書に『医療戦略の本質』（マイケル・E・ポーターら著、2009、日経BP社）などがある。

■ご講演内容の要旨

データ活用、デバイスの小型化、そしてデジタルでのコミュニケーション（AI含む）により、医療はロケーションやシチュエーションを問わず提供可能になりました。これにより医療の日常化が進み、その役割も従来の疾病の診断と治療から、健康の増進や病気の予防、生活支援へと拡大しています。

産業に期待される役割や提供すべき価値が大きく変わることは、産業構造やビジネスモデルの大変革を意味します。この破壊的イノベーションの波に乗り遅れないためには、新たな事業戦略、危機感と自信を持ったリーダー、そして将来を見据えた明確な変革のビジョンが必要です。

健康の増進や病気の予防の領域でどのような戦略が描けるかについて、事例を交えて紹介します。

講演Ⅲ 松尾 未亜 氏

株式会社 野村総合研究所 メドテックコンサルティング部 部長



■ご略歴

2004年株式会社野村総合研究所入社。2023年メドテックコンサルティング部部長。メドテック・ライフサイエンス関連の製造業、特に医療機器業界を中心に、顧客企業の経営戦略、事業戦略に関わるプロジェクトを企画、推進。

■ご講演内容の要旨

売上規模別に見た医療機器メーカーの収益性をみると、世界的に二極化が進んでおり、業界の競争がより激しくなっていることが確認される。厳しい環境のなか、デジタル技術による革新が世界的に進み、新たなプレイヤーの動きも顕著である。他方では、中国を中心とする新興企業の成長が進み、環境の変化は加速している。また国内では、改正次世代医療基盤法が2024年に施行となり、データの利活用が本格化していく。本講演は市場の環境変化をまとめながら、日本企業にとっての示唆について、参加される皆さまとともに考える場としたい。